

ふーぬ風

発行 〒901-1115
沖縄県南部農業改良普及センター
TEL : (098) 889-3515
FAX : (098) 835-6010

平成22年度農事功績者表彰で神里 護さんが「緑白綬有功章」受賞！！

沖縄県普及事業60周年記念事業で功労賞として「仲座 亀吉」、「神谷 美枝子」、「新垣 光勇」、功労団体として「みなみの味グリーン・ツーリズム」、「南大東村農業青年クラブ」が受賞！！



平成22年11月19日に東京都で開催された平成22年度農事功績者表彰式において、県から農事功労者として推薦した八重瀬町の神里護さんが「緑白綬有功章」を受賞した。

緑白綬有功章は、農業改良の実行に関し顕著な成績をあげ、地域農業に貢献した農業者を表彰することを趣旨とし、社団法人大日本農会総裁（桂宮宣仁親王殿下）が明治27年に創出した表彰制度で、平成22年で第94回を数えている。

神里さんは、八重瀬町で花き作経営（小ギク、アレカヤシ、ヘリコニア等）を行っており、表彰事由として

- (1) 沖縄県農業青年組織の結成及び農業青年リーダーとしての活躍
- (2) 県内で先駆的に花き栽培に取り組み、徹底した土づくりとコスト節減による周年花き作経営の確立
- (3) 指導農業士を務め地域のリーダーとして地域農業の振興と担い手の育成に貢献

が認められ今回の受賞となった。



県農林水産部長へ受賞報告



八重瀬町長へ受賞報告

平成22年11月2日、沖縄県農業改良普及事業60周年記念式典において、南部地区から3氏が普及功労者、2組織が功労団体として表彰された。

この賞は、普及事業60周年を記念し、沖縄県の普及事業の発展に功績のあった農家、団体を表彰するものである。



仲座 亀吉（八重瀬町）

県農業士会会長、名誉指導農業士で表彰され、レタス、サヤインゲンの栽培の傍ら新規就農者の育成に尽力。



神谷 美枝子（八重瀬町）

直売所「白川ファーム」を開設し地域農産物販売・加工品開発と農業体験及び研修受入等で農業後継者の育成に尽力。



新垣 光勇（南城市）

指導農業士、名誉指導農業士で表彰され、トマト、マンゴー栽培で農業振興に貢献。又、新規就農者等に対する講師活動で担い手の育成に尽力。



みなみの味グリーン・ツーリズム

農産加工と都市農村交流のための起業活動組織として、農村女性の役割発揮と農村活性化に寄与。



南大東村農業青年クラブ

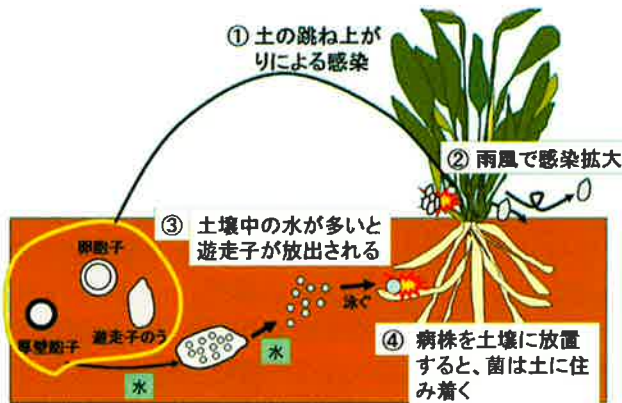
プロジェクト活動実践、村行事への積極的参加、村のリーダーとなる人材を育成する組織として貢献。

(普及企画班 中村)



ストレリチアの立枯れ症対策編

立枯れ症を引き起こす原因は疫病菌です。



立枯れ症の主な感染経路は上の図①、②のとおりです。疫病菌は降雨や多湿条件によって、特に25～30℃の気温の上昇した時期に活動が活発になります。梅雨期以降は立枯れ症が発生しやすくなります。

ストレリチアの疫病の防除体系 では、その時期にどのような対策をすると良いでしょうか。

排水対策 **重要**

+

薬剤散布	敷き草などにより土を覆う	感染株の除去	株元に水が溜まらないようにする
------	--------------	--------	-----------------

その時期に必要な病気対策

+

植物を元気にする栽培管理

立枯れ症の被害軽減をするには、水の対策つまり、排水を良くすることが最も重要です。排水対策なしに、殺菌剤などで処置を行うことは、風邪を引いているのに風邪薬を飲んで、雨中の作業を行うようなものです。したがって、病害が起こりにくい環境を整えるために、排水対策を優先に取り組みましょう。他の対策はその後です。



あわせて、土が植物に跳ね上がらないように、敷草などでマルチをすると立枯れ症はかかりにくくなります。

排水が良いように見える畑でも、立枯れ症が発生するケースが見られます。では、立枯れ症が発生しやすい畑を以下のチェックリストを活用して状態を把握して下さい。

- 畑の排水不良チェックリスト**
- 晴れ間が続いても土が湿った感じがする。
 - コケや藻が一年中はえている。
 - 道路や隣の畑より低く、水が畑の中に流入してることがある。
 - 畑周辺の排水溝が機能していない。(目詰まりしている)
 - 40cmほど穴を掘ると、水がしみ出してくる。

以上の5項目に1つでもあてはまる場合は排水対策を行いましょう！

環境整備による排水対策の例

①畑の外から水を入れない。

②雨などで畑の中に入った水を素早く出す。

1. 畑の周囲に排水溝を設置し傾斜の下側など、水が溜まりやすい場所から水を除去するとともに、外からの流入を防ぐ。

2. 高畦を設置し、株の周りが水分過多にならないようにする。

自分の畑を観察してみましょう！！

わい性インゲン ジベレリン処理で長期栽培・収量アップ

わい性インゲンの栽培状況

県内で栽培されるサヤインゲンはケンタッキーブルーやアルハマ等のつる性品種とサーベル、ベストクroppキセラ等のわい性品種があります。

わい性インゲンの特性は節間が短く草丈は約50cmです。そのため、展開した葉は重なり、光合成に不利な条件となつて収量を上げることができません。また収穫作業では低い位置でかがんだ状態での窮屈な作業となります。そのため、最近ではわい性インゲンの栽培は減少しつる性インゲンが主流となっています。



つる性インゲンの栽培では・・・

つる性インゲンは誘引することで高位置まで繁茂します。最初の収穫ピークでは秀品率が高く、それ以後では秀品率が低下します。そのため、大規模農家では、は種時期をずらし、収穫ピークを調整しながら短期栽培を行っています。ピークが終ると栽培を打ち切り、再度植え替えます。しかし、小規模農家ではずらし栽培は困難です。

ジベレリン処理をしたわい性インゲンの特性！

わい性インゲンはジベレリン処理すると草丈は約50cmから140cm位に伸びます。

草丈はある程度伸びると止まり、それ以上伸長することはありません。節間が伸びたことで葉の重なりが減り、日当たりが良くなって収量の増加が見込めます。また、節間が伸びるため収穫作業も楽になります。



わい性インゲンのジベレリン処理要件！

わい性インゲンはジベレリン処理によって節間の伸長を促進しますが、処理から約2週間が伸長期間です。この期間のハウス内環境は、①湿度を高く保ち、②遮光することで、効果をさらに高めることができます。ハウス内温度が、30℃を超えるような場合は換気し、高温にならないように管理をします。また、気温が低くなると処理効果が低下するので、は種は遅くとも11月上旬までに実施します。

わい性インゲンのジベレリン処理手順！

は種から約1週間後には発芽して子葉が展開します。ジベレリン処理は最初の本葉が米粒大の約5mm出た頃が適期で、夕方に実施します。



ジベレリンの撒布は1回しかできません。そのため、



は種時の覆土の厚さを均一にし、発芽揃いを良くすることが重要となります。発芽が揃うことでジベレリン処理の効果を発揮することができます。



ジベレリン処理わい性インゲンの有利性！

ジベレリン処理わい性インゲンは①比較的小規模栽培農家に適する。②収穫の作業性が向上する。③収量が向上する。④品質が良くなる。⑤栽培期間は10月から5月までと長期栽培が可能になる。

10年ほど前に県内に導入されたわい性インゲンのジベレリン処理技術による栽培は、現在宮古や北部地域が中心となっていますが、南部地域でも見直され、普及し始めています。

(園芸技術普及班 桐原)

家畜伝染病の侵入防止に取り組みましょう!!

鶏、牛、豚の異常を発見しましたら早期通報を行いましょう

連絡先：中央家畜保健衛生所
電話：098-945-2297

1、高病原性鳥インフルエンザについて

今年の冬は高病原性鳥インフルエンザが複数の県で発生するとともに、野鳥の渡り鳥からも見つかるなど、いつどこで発生してもおかしくない状況です。本県での発生防止のため消毒・飼養衛生管理に努めましょう。

鳥インフルエンザと疑われる状況

- (1) 突然の死亡、顔面・肉冠・脚部の浮腫など高病原性鳥インフルエンザが疑われる固体を確認した場合。
- (2) 1鶏舎において、1日の死亡羽数が直近3週間の平均死亡羽数と比較して2倍以上となった場合。
- (3) 1鶏舎において、5羽以上がまとまって死亡している、うずくまっている等異常が確認された場合。

下記の飼養衛生管理を実施しましょう

- (1) 防鳥ネットに隙間・穴がないこと。
- (2) ねずみ等の野生生物を鶏舎内に侵入させないこと。
- (3) 農場内専用の衣服・履き物を設置し、出入り時に必要な消毒を行うこと。
- (4) 鶏へ給与する飲用水は、消毒されたものであること。



顔面の浮腫

2、口蹄疫について

わが国では去年3月から7月にかけて宮崎県において292例の発生があり、29万頭の殺処分という損害がありました。現在では清浄化国と認められました。韓国においては、約5,700農家、320万頭余の殺処分が予定され、全国的なワクチン接種などによる対策にもかかわらず、新たな発生があります。そのほか台湾、中国など周辺国でも続発しており、まだ危険な状況ですので、引き続き防疫体制を維持していきましょう。

口蹄疫の症状

よだれ、発熱、口の中の水ぶくれ・ただれ、鼻の部分の水ぶくれ、鼻の中のただれ、蹄（付け根部分）のただれ。

農場の防疫対策を実施しましょう

- (1) 毎日、すべての飼養家畜の健康観察。
- (2) 農場に出入りする際の車両消毒。
- (3) 農場に出入りする車両、人の記録。
- (4) 管理者以外の立入り制限。
- (5) 発生国への渡航自粛。



多量のよだれ(牛)



蹄部の水ぶくれ(豚)

(地域特産振興班 伊福)



うちなー島ヤサイ

ぐしちゃんいい菜（カンダバー）の産地化をめざして



夏野菜としてのカンダバー生産

平成21年度うちなー島ヤサイ産地化推進事業の導入を機に、八重瀬町と連携し、ぐしちゃんいい生産組合を対象にカンダバーの産地化支援を行いました。取り組みの背景には、八重瀬町具志頭地域はかんしょの拠点産地であり、カンダバー生産の素地があったこと、農業研究センターで育成された茎葉を利用するかんしょの新品種が普及の段階にあったことが挙げられます。

この新品種は、葉柄が長く、6月から11月まで収穫でき、食味もクセがないのが特徴で、色々な料理に活用できる、夏野菜として期待される島野菜です。



展示ほのカンダバー

食べ方を伝え、販売促進！

従来のカンダバーは、琉球家庭料理の「ぼろぼろジュシー」によく使われていますが、新品種の特徴を生かし、どんな料理にも合うことを伝えるため、学校給食栄養士や業者等を招き、試食交流会を開催。結果、県内量販店への販売や学校給食活用等につながりました。



販売促進交流会の様子



県内量販店での試食販売

当初は、3戸の農家で取り組みを始めましたが、展示ほにより技術実証もでき、販売先が確保されたことから栽培農家数も増え、面積も拡大しています。組織で集荷・出荷体制を組んだことから、取引業者も多くなり、次期作も販売先や給食センターから期待がよせられています。生産組合では、生産者、面積共に増やすよう励んでいます。

命名：ぐしちゃんいい菜！

従来のカンダバーのイメージでは、新品種の良さが消費者に伝わりにくいのではないかと、組合員の生産意欲を喚起し、ブランドづくりをするには、新たな名前を付けらどうかと、商標登録に取り組みました。その名も「ぐしちゃんいい菜」。

由来は、農業研究センターでつけられた系統番号「沖育01-1-7」の数字を文字って“いい菜”、地域名も入りたいと「ぐしちゃんいい菜」になりました。平成22年4月に出願し、平成23年2月10日に登録されました。



弁理士等を招いて商標検討会の様子

商標登録証

産地化も近し?! 組織力で地域活性化！

八重瀬町、農業研究センターとの連携や、八重瀬町商工会と農商工連携を取組んだ結果、「ぐしちゃんいい菜」が広くPRされました。インターネットで「ぐしちゃんいい菜」を検索してみると、結構な件数がヒットするようになりました。生産者から「栽培してとっても楽しい！来期はもっと増やすよ」と嬉しい言葉がありました。少しでも所得が増えれば産地も活気があふれます。カンダバーといえば「ぐしちゃんいい菜」とイメージできるようになった?! でしょうか。

(地域特産振興班 根路銘)

久米島肉用牛生産の現状について

1. 久米島の農業における畜産

久米島町の農業生産額は多い順にさとうきび15億3,700万円、花き4億2,300万円、肉用牛3億9,700万円となっており、畜産が農業生産額に占める割合は約15%です(平成21年度町統計資料)。久米島町における畜産は肉用牛繁殖経営が主体であり、肉用牛の飼養頭数が3,152頭、飼養農家戸数118戸(平成21年県畜産課資料)です。南部地区内でも主要な肉用牛子牛生産産地です。

2. 草地の状況

久米島町の肉用牛飼養頭数は平成14年までは2,120頭前後で推移していましたが、平成14年からの2次にわたる畜産担い手育成総合整備事業などの導入による草地の増加や家畜市場の移転、新築により生産基盤が整備され、近年は増加しています。

久米島が他産地と比較して恵まれている点の一つは、自給粗飼料がほぼ100%島内で生産出来ている点です。

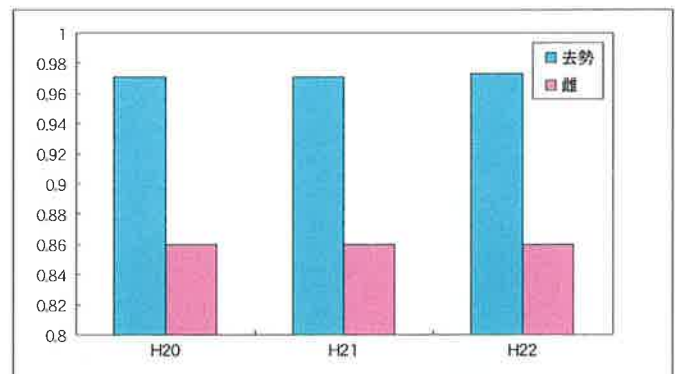
草地で栽培されている牧草は県の牧草奨励品種であるギニアグラス(121.0ha)、ディジिटグラス(品種トランスバーラ)(111.6ha)、ローズグラス(32.2ha)です。特にトランスバーラは南部地区全体(約116.7ha、平成21年度県畜産課資料より)の96%の栽培面積を占めています。トランスバーラは、適正管理すれば栄養価がチモシーと同程度と評価されている高栄養価の粗飼料であることから、子牛の粗飼料としてとても有効な草種です。草地管理はほぼ機械化体系が確立されています。年間平均刈取回数は4~5回であり、あと1回の増加を目標としています。今期は春から秋にかけて降雨のある日が多く、刈り取り後の乾燥調整が難しい年でした。



自給粗飼料を細断して子牛へ給与している状況

3. セリ市場の状況

粗飼料の生産基盤が充実し、飼養頭数も多い久米島町では、島内に家畜セリ市場があり、年に6回(奇数月)開催されています。平成22年の取引実績では、子牛上場頭数は去勢737頭、雌610頭、合計1,347頭、セリ平均価格は360,726円(税込み)でした。発育の目安となる出荷時の日齢体重(出荷体重/出荷日齢で算出。)は平成20~22年の3年間ほぼ一定であり、去勢0.97、雌0.86で推移しており飼養管理が安定していることが伺えますが更なる向上を目指しています。



グラフ：子牛出荷時の平均日齢体重の推移

4. 肉用牛子牛拠点産地認定について

平成22年12月には、久米島和牛改良組合がJAおきなわ合併後5周年を記念して式典が開催され、益々盛り上がりを見せています。

また、久米島町は、平成23年1月14日に子牛の拠点産地に認定されました。優良子牛の生産産地として今後も頑張っていきます。

(久米島駐在 長谷)



和牛改良組合5周年記念式典 部会長の新里氏

カボチャ産地の反収向上・品質安定をめざして

～地域農業振興総合指導事業で集落農業の振興を図る…南風原町山川集落～

この事業は、山川集落の農業に関する問題を地域の実情に応じて解決し、豊かな地域社会づくりを推進することを目的としています。実施期間は平成22年度から平成24年度の3ヵ年間で、地域における自主的な活動を促進しながら、農業生産の振興・農業構造の改善・農村環境の整備及び農家生活の改善等に取り組んでいきます。

地域概要

山川集落の農家戸数は55戸であり、集落における主な農業生産はカボチャ、へちま、ゴーヤー、ニラ等の露地野菜・施設野菜が中心となっています。平成21年度に山川集落は、「ゆいまーるによるふるさとづくり」で南風原町で初の「ふるさと百選」に選定されており、集落団結力のある集落です。

事業の取り組み状況

南風原町まちづくり振興課、JAおきなわ南風原支店、普及センターで構成する総合指導チームと、集落リーダーで作成した活動計画に沿って、本事業を進めています。これまで地域の現状・意向を知るために山川集落の農業振興に関するアンケート調査の実施、月1回の巡回栽培指導の実施、カボチャ栽培に関する展示ほ設置を行っています。

展示ほの内容

チーム会議や生産農家との情報交換により、カボチャの「着果不良、葉やけ」等の栽培課題が取り上げられ、課題解決に向けて実証ほを2箇所設置、**反収・品質安定を目標に取り組んでいます。**

展示ほ1：作期の前進化における着果・品質安定

(宮城 幸一ほ場)

展示ほ2：季節風対策による着果・品質安定

(知念 智ほ場)

野菜栽培講習会の実施

JAおきなわ南風原支店と普及センター共催で土作り講習会、カボチャ栽培講習会(2回)、カボチャ栽培現地検討会等を実施し、品質の良いカボチャ栽培に取り組んでいます。

カボチャ栽培における季節風(防風)対策の普及

ソルゴー等による季節風(防風)対策の有用性や栽培へ向けての準備の重要性等の周知が図られ、ソルゴー等による季節風対策を積極的に取り入れる農家が増えてきています。



展示ほ検討会の様子



(普及企画班 比嘉)

平成22年度就農支援講座【基礎コース・実践コース】を開催しました！

南部農業改良普及センターと南部地区青年農業者育成確保対策協議会の共催による「就農支援講座」が7月6日に開講し、計12回の講座が実施され、11月30日で閉講しました。

今年度の受講生数は41名(基礎コース22名、実践コース19名)となりました。

図1.受講者年齢層

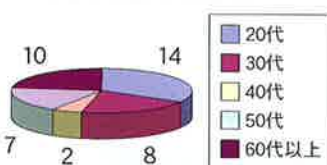
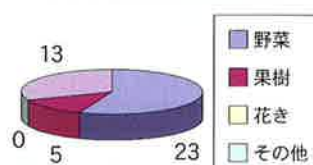


図2.受講者経営類型



講座受講の様子

○カリキュラム

【基礎コース】

回	開催日時	内容
第1回	7月 6日	・開講式 ・「知っておきたい気象の知識と防災に関する情報提供」 ・「沖縄県における台風とその対策」
第2回	8月10日	・「沖縄県の農業の現状を知ろう」 ・「農は土から～やさしい土の話～」
第3回	9月 7日	・「農業資材等に関する基礎知識」 ・「液肥・ほかし肥の作り方」
第4回	10月12日	・「わかりやすい作物生理」
第5回	11月 9日	・「農機具の安全な使い方」
第6回	11月30日	・「知っておきたい関連制度」 ・「農業経営の三本柱～基礎知識～」 ・閉講式

【実践コース】

回	開催日時	内容
第1回	7月 6日	・開講式 ・「知っておきたい気象の知識と防災に関する情報提供」 ・「沖縄県における台風とその対策」
第2回	7月20日	・「農は土から～実践～」 ・「効果的な病害虫防除法」
第3回	8月 3日	・「果樹の栽培技術」
第4回	8月17日	・「野菜の栽培技術」
第5回	9月10日	・「プロフェッショナルの流儀～指導農業士に学ぶ(管内)～」
第6回	9月14日	・「先進農業経営事例に学ぶ」 ・閉講式

(普及企画班 橋)

新規就農者
紹介コーナー

がんばれ! NEWファーマー — 生産部会が育む未来(担い手) —

真新しい施設でピーマンの誘引作業に取り組んでいたのは、今回のNEWファーマーの仲宗根朝洋さん(25歳)。ピーマン、オクラ、小ギク、かんしょの拠点産地である八重瀬町で野菜(23a)を栽培しています。



就農を志す以前から、JAおきなわ具志頭支店ピーマン部会と縁があり、模合に参加。「農業に取り組む人達に興味を持ち、その人達が背中を押してくれた」と話す。平成20年度「ゆいま〜る事業」、平成21年度「農家実務研修」と着実に研修を積んできています。平成21年11月に認定就農者として認定され、平成22年4月に就農しました。

「研修では、他地域の生産者の実例を肌で感じ、農業に対する考え方を学べた。いざ、就農すると大

変なことが多いが、自分で決めた事だから日々充実していますよ」と話していました。

現在は部会に加入し、エコファーマー認定を取得しました。

今期は反収8tを目標としており、「5年以内には労働力を導入し、面積拡大を図れるように頑張っていきたいです」と今後の抱負を力強く語ってくれました。



(普及企画班 橘)

平成22年度沖縄県青年農業士・指導農業士・女性農業士が認定される!!

10月13日に沖縄県庁にて平成22年度沖縄県農業士等認定式が行われ、南部地区から青年農業士、指導農業士、女性農業士として3名が認定されました。また、名誉指導農業士として感謝状の授与が1名に行われました。

青年農業士：安次富 斉 (南城市)



インゲン、ゴーヤー等を栽培している。平成20年にJAおきなわ玉城支店野菜生産部会インゲン専門部会長、南城市農業青年クラブ会長を務め、地域からの信頼は厚い。エコファーマーとして認定され、環境にやさしい農業に取り組んでいる。また、小・中学生の農業体験学習の受け入れや後継者育成も積極的に行っている。

指導農業士：新田 眞佐樹 (南城市)



JAおきなわ佐敷支店野菜花卉生産部会長を務め、ピーマン栽培において中核的な存在である。県内外のピーマン農家の視察受け入れや修学旅行等の中学生・高校生の農業体験学習の受け入れを行っており、地域農業振興や後継者育成を積極的に行っている。

女性農業士：仲里 峯子 (南風原町)



ゴーヤー、キュウリ等を栽培している。南風原町の「けた下ふれあい市場」に出店し、農産物・加工品の販売を行っている。地域の野菜を利用して料理講習会や体験学習を行い農産物の活用普及に積極的に取り組んでいる。また、南風原町農業委員として活躍している。

名誉指導農業士：大城 健福 (糸満市)



熱帯花木を栽培している。南部地区農協青年部会長、糸満市議会議員、沖縄県農業士等連絡協議会会長等を務め、普及事業の推進に尽力している。平成12年農事功績者として「緑白綬有功章」の受賞及び農業改良普及事業50周年で表彰された。



平成22年度沖縄県農業士等認定式 (H22.10.13)

(普及企画班 神谷)